

## →大坂峠は、古代が満ち満ちる葛城鞍部の道

2022. 7. 10 (日) カルチャーウォーキング

関西文学散歩 第 571 回 参加報告

### ■香芝市の西地区に向かって歩く

香芝市は、奈良盆地の西端に位置し大阪府（柏原市、羽曳野市、太子町）と接する、二上山の東麓の扇状地に広がる人口 8 万の地域である。

大阪府と接する西地区は、生駒・信貴山系と金剛・葛城山系の鞍部で、そこに大阪から大和、伊勢に通じる鉄道（近鉄大阪線、南大阪線）と西名阪自動車道、国道 165 号が通っている。今回の文学散歩は、そんな幹線に重走し、「大阪」の地名由来ともいう香芝市の中央部から西に向かう大坂越えのゆるい坂道を歩くコースである。



万葉歌碑

### ■「金剛砂王」の顕彰碑と「大の松為次郎」の墓碑

文化ホールの 2 階で昼食をとった後、県境の「屯鶴峰」に向かっての行進だ。昼食は、今池親水公園で摂る筈だったが、急遽、文化ホール集会室を借りる事になったらしい。外は、晴れ間が広がり陽射しが厳しくなっていた。2 度ばかり給水休憩をとりながら、国道 165 号線をゆっくり進む。

一旦、車道を避けた小道に入ると、宿場の街道筋でもなく農村のそれでもない独特の趣のある古い集落の道だ。道ばた右側に「安川亀太郎翁顕彰碑」が目に入ってくる。彼はこの村（穴虫地区）の金剛砂王とのことだ。

さらに 300 ほど先の道脇に、「大の松為次郎」の墓標があった。ここより北東 500 ほどのところに「大坂山口神社（穴虫）」がある。古くからこの神社には「馬場のお宮さん相撲」が奉納されていたが、馬場組頭で、大正時代に引退相撲を行った「大の松為次郎」こと地元力士・吉田栄造の墓標である。

### ■万葉歌碑

信号標記「穴虫」の三叉路で、本日のメインテーマ「大坂越え」を謳った「大坂を我が越え来れば二上に もみち葉流るしぐれ降りつつ」（万葉集）の歌碑を観る。

この歌、よみ人しらずの歌である。古代から近鉄が開通する近代まで、頻繁に人々が額に汗し「大坂越え」をした様を今に偲ぶ「よすが」といえるのではなからうか。

その後、我々は 165 号線をそのまま西に行くのではなく、南西の方向、近鉄南大阪線に沿って、県境の「穴虫峠」（大坂越え）に向かう。暑さのせいで疲労困憊、おしゃべりなし歩

行。「屯鶴峰(どんづるぼう)」はもう一息だ。

### ■屯鶴峰

屯鶴峰は、千数百年前の二上山の火山活動による火砕流や火山灰などが堆積し、その後の地殻変動で隆起した凝灰岩が露出、さらに長い年月の間に風化したり浸食されたりして現在の姿になった、標高 150 ㍎の奇勝・奇岩群である。遠くからながめると、松林に多くの鶴が屯(たむろ)しているように見えることから、こう名づけられたのである。

県境の穴虫峠の少し手前、車道から北に 50 ㍎ほど登れば、そのことを一望できるのだが、疲れた脚にはかなりの負担であった。しかし、全員、高みまで登り、納得したところである。



どんづる峯

### ■帰路は近鉄南大阪線の二上山駅から

1.5 ㍎ほど線路に沿って戻ると二上山駅。本日の終着駅。お疲れさま。時に 15 時。

<報告 : 7/27 / 石元 英雄 >